

崔承喜の〈剣舞〉に関する研究:『朝鮮民族舞踊基本』(1958)の〈剣舞〉基本動作の再現を通して

お茶の水女子大学大学院 朴景蘭

1. 研究背景と目的

舞踊家崔承喜(1911-1969)の舞踊は、現代的な創作であり韓国舞踊の古典性はない(朴明淑 1994)と指摘されている。1946年に崔が北朝鮮に渡ってから創った〈剣舞〉の作品の映像記録や崔の振付の原型を伝える動画資料は確認されていないが、崔が執筆し、朝鮮舞踊教育の教本となった、『朝鮮民族舞踊基本』(1958)には〈剣舞〉(칼춤)の基本動作10種が図入りで説明されている。本研究では、同教本に基づく基本動作の復元を試みながら、崔の舞踊の古典性と独自性を考察し、崔の北朝鮮における舞踊の一端を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

文献研究及び実地調査を進める。主要参考文献は前掲の教本及び韓国の伝統的な剣舞に関する先行研究、及び韓国伝統舞踊の原理を示した文献資料である。加えて梁承美(ヤン・スンミ)の〈剣舞〉の動画記録を、教本に基づく復元動作との比較対象とした。梁は、崔の舞踊研究所で張紅心(チャン・ホンシム)に咸興(ハムフン)剣舞を学んだという韓スンオクの弟子である(梁 2020)。実地調査では朝鮮舞踊家A及びBの協力を得て、教本にある基本10動作の復元(2020年7-9月)を行った。

3. 結果と考察

3-1. 教本と韓国の伝統的な「剣舞」の比較

韓国の文献資料(イム, 2006; ノ, 2008)に対する記述には教本の「剣舞」の基本動作における剣を回す際の注意点と手を伸ばす方法と類似した記述が見られた。特に、燕風臺(ヨンブンデ・연풍대)の中の、韓国北部地域の〈剣舞〉の特徴とされる、「両(片)剣で地面を打つ」動作に関する描写は、崔の教本の記述と共通していることが確認された。

3-2. 教本に見られる「剣舞」の基本動作の構造

チェ・ヒワン(1998)が指摘する韓国伝統の形式原理である「あやしとしめ」については、教本では「体を上下にあやす(ジョンジュルダ)」と表現されている。また、教本には足を踏み出す際の足の形が番号として記入されており、空間の中での移動を示す「比丁比八」が確認できる。動作の線としては、燕風臺に加えて進行方向においても決められた番号があり、進み、後退する回数を数字で示す「三進三退」が伺えた。教本の第9動作と第10動作には、円形回りしながら回転を行う燕風臺が取り入れられていることが確認される。

教本には「剣舞」の伴奏として「タリョンチャ

ンダン」という記述があり、8分の12拍子の短い旋律の楽譜(遅いタリョン)が掲載されている。これは動作の強弱と大小が連結されていると考えられ、チェがリズム原理として挙げる「大三小三」に共通するものとして捉えられる。

3-3 舞踊家Aによる復元動作と梁の映像における呼吸について

教本の第1動作である足を地面に踏み出す動作は、崔(舞踊家Aによる復元)と梁は同一であり、これは横(2005)が指摘する「踏地低仰原理」に通じる。両者とも腕を胴体の横に伸ばし、比較的肘を曲げないで剣を手首で回しながら、屈伸をし、腕を上下に垂直的にあやす動きが類似している。呼吸は、両者とも垂直に呼吸をしながら腕を上下にあやし、「腕が上下に、下半身も上下に動く屈伸として表現」された「垂直構造の呼吸」(イム 1998)が見られる。ただ舞踊家Aの場合には、ある動作から次の動作に移す際、梁に比べ0.2秒位先に一気に起き上がり下がるという素早い呼吸の変化と動作の途切れが見られた。

4. まとめ

教本の動作の説明からは膝を曲げ、呼吸と共に下・上半身をあやし、しめなど韓国伝統的原理に基づいた動作で構成されたと考えられる。教本と韓国の文献に共通している剣の回し方と腕の伸ばし方は、おそらく、韓国の北部地域の剣舞の特色を参照した可能性が高い。教本に基づく復元動作と梁の動作の形態が類似しており、梁の師匠である韓スンオクは、平議の崔の舞踊研究所で張紅心に咸興剣舞を学んだとあるため、崔も韓もその動きを取り入れた可能性が考えられる。また、舞踊家Aの復元動作と梁の記録には、第1動作において、呼吸と垂直構造による屈伸によって、腕も上下にあやすという、韓国の伝統舞踊の原理に通じる共通性が見られた。ただし、教本に記された楽譜に合わせた舞踊家Aの動きには呼気と吸気の急な変化と動作の途切れが見られた。それは、用いた伴奏曲とチャンダンの把握に限界があったことと、再現した舞踊家Aの個人的な舞踊経験が影響していると考察された。

引用参考文献

- 朴明淑(1993)「崔承喜芸術が韓国現代舞踊に及ぼした影響」。
横敬淑(2005)『韓国伝統舞踊の新しい地平』、韓国学情報(株)、pp. 27-31。
イム・ハクソン(1998)「韓国舞踊の呼吸構造による呼吸の類型及び特性研究」、『大韓舞踊学会論文集』Vol.35:146。
イム・スジョン(2006)「韓国女妓剣舞の芸術的形式と地域特性研究」。
ノ・スチョル(2008)「張紅心の生涯を通じた作品研究 -〈剣舞〉を中心に-」。